

卒業おめでとうございます

図書館は卒業後もご利用できます！

図書館は、一般の方もご利用できます。卒業生や一般の方が利用するには手続きが必要です。「高野山大学図書館利用願」に必要事項（住所・氏名・電話番号等）を記入します。

※ご利用時に身分証（免許証等）の提示をお願いします。

書類記入時に年間登録を「希望する」に○した場合、「図書閲覧表」を、「希望しない」に○をした場合「学外者用図書館利用証」を作成します。

違いは以下の通りです。用途に合わせてご利用ください。

2016年 3月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2016年 4月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

	9:00-20:00		9:00-17:00
	13:00-20:00		13:00-17:00
	休館日		9:00-19:00

学外者用図書館利用証

期限：当日のみ有効

館内閲覧のみ

貸出不可

図書閲覧票

期限：登録日から年度末
(3/31 まで)

閲覧・館外貸出可

貸出期間：同窓生 3 週間

学外者 1 週間

貸出冊数 5 冊

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町

高野山 385

高野山大学

図書館閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

twitter : @koyasanlib

図書の返却忘れにご注意！！

図書館の資料は大切なものです。図書館へ返却に行けない場合、郵送も可能です。

DVD や CD は中身が入っているかを確認して、貸出資料は傷まないように厳重に梱包して図書館までお送りください。品物の欄には「返却図書」とご記入ください。

※紛失した場合、現物で弁償していただきます。

— しずかに思えば —

高野山大学教授 図書館長 下西 忠

私の愛読書の一つである吉田兼好の『徒然草』にこんな文章がある。

しづかに思へば、よろづに過ぎにしかたのこひしきのみぞせんかたなき。(29段)

しづかに眼を閉じて思えば、何かにつけて過去のことの恋しさがこみあげてきて致し方がない、という意味である。兼好の追憶の一感想である。図書館長を拜命して5年がすぎようとしている。定年退職をもってこの役職を退くことになった。過去のことをいろいろ思い出すけれど、いちいちここで書くスペースもないので省くことにするが、木下図書課長をはじめ石原、吉川図書課員の協力をえて無事大役を全うできたことは望外の喜びである。感謝したい。就任のとき、彼らに言ったことがある。「図書館は内外の大学研究者だけのものではなく、学生が利用するためでもある。だから、学生のためになることなら、予算などの環境がととのえば、なんでもやれ」と。課員の協力をえて少しは前進したのではないかと自負している。

退任にあたり、『徒然草』の中からもう一つ説話を紹介しようと思う。講義などでもとりあげたことがあるが、改善という観点でもう一度紹介したい。

公世の二位の兄^{せうと}に、良覚僧正と聞こえしは、極めて腹あしき人なりけり。坊の傍らに、大きな榎木のありければ、人、「榎木の僧正」とぞ言ひける。この名^{しか}然るべからずとて、かの木を伐られにけり。その根のありければ、「きりくひの僧正」と言ひけり。いよいよ腹立ちて、きりくひを堀り捨てたりければ、その跡大きな堀にてありければ、「堀池僧正」とぞ言ひける。(45段)



(富山県高岡市の万葉記念館にて撮影)

あだ名を次から次につけかえられた話である。この坊さんの失敗は「うわべだけを改善すればいい、あだ名がつかない」と判断したことである。物事はいくら「うわべ」だけを改善してもダメで、その本質そのものを改善しなければならないということに気づかなかったことである。この話での「本質」とは何か。それは簡単。自分の怒りっぽいという性格そのものを改善しなければ永遠にあだ名を人につけられるということである。今後、大学の存在を高めるためにも本質そのものを改善していただきたいものである。

写真のように水滴がポトリポトリと落ちていく。まるで私の生命が水滴のように一つ一つ落下していくように感じた。でも、残りの人生を美しく、楽しく生きたいと思う。